

暮らしの中に 息づく 歴史

奈良や平安、鎌倉の時代を語る遺物や文化が残るまち・いびがわ。
先人から私たちへ、そして未来の子どもたちへ——。
脈々と語り継がれ受け継がれていく、素朴で深く、美しい歴史たち。

揖斐川町のお茶コラム

- ・荒茶の出荷量 県下No.1!
揖斐川町の荒茶(一般的に飲まれるお茶)の出荷量は岐阜県下一。2位の出荷量の2倍を出荷しており、「美濃いび茶」として親しまれています。
- ・日本古来のお茶「天空の古来茶」
現在、日本で生産されているお茶の9割以上は、品質に優れ、日本の自然環境に適した「やぶきた」。静岡、宇治など比較的暖かい地域で栽培される、雪にはあまり強くない品種です。
一方、雪の多い揖斐川町春日地区で日本人が昔から飲んでいたお茶は、今も栽培され続けています。また、南米ペルーのマチュピチュのような山の上で栽培されることから「天空の古来茶」と呼ばれるようになりました。



伊吹山には、 信長の薬草園が存在した？



やく草

織田信長はポルトガル人宣教師の進言を受け、伊吹山の裾野に50haの広大な薬草園を開いたと言われています。ハーブや漢方薬と比べてあまり聞き慣れない「薬草」ですが、揖斐川町には今もその文化が残っており、日常的に使用されています。



「君が代」発祥の地



伊吹山とさざれ石 ⑨⑥

『日本書紀』に「ヤマトタケルノミコトは伊吹山の神を倒そうと試みて、死を招いた」と記される霊峰。ドライブウェイで9合目まで行く方法が一般的ですが、近年は東山麓登山口にあるパワーストーン「さざれ石」に力をもらってから登る人も増加中。この石は国歌に詠まれ、天与の自然石として日本を象徴する存在でもあります。



たにくみおどり かまくらおどり たいこおどり
谷汲踊・鎌倉踊・太鼓踊など

背中にシナイ(またはホク)と呼ばれる竹と和紙で作った飾りを背負い、胸に大きな太鼓を付けて行う踊り。源氏が平家を滅ぼした際、平和の訪れを祝って舞ったものだと言われています。現在も町内15地域以上に伝わっており、地域によって多少の違いはあるものの、構成が似ているのも特徴の1つです。

ぶらさうのいび いびがわ
風光明媚な伊吹山



「たにぐみさん」と親しまれる満願霊場

たにぐみさんけごんじ
谷汲山華厳寺

創建は平安初期798年。日本最古の巡礼行である「西国三十三箇所霊場」の最終霊場として、また願いが叶う「満願霊場」として愛される名刹です。多くの建物から成るお寺ですが、中でも「子安堂」は安産・子宝・赤ちゃんの身体健康祈願のために多くの若い夫婦が訪れ、よだれかけを奉納しています。参道の桜・紅葉の美しさも格別。



全国的にも珍しい「子供歌舞伎」と「神輿渡御」の共演



揖斐まつり ①

奈良時代以前に創建された三輪神社の例祭。暮らしが安定してきた影響を受け、江戸中期、1700年代初旬に現在のような華やかなお祭りになりました。豪華絢爛な5輦の芸輦(げいげん)上で「子供歌舞伎」が奉納され、まちなかを3基の大神輿と10基の青年・子供神輿が渡御します。子供歌舞伎と神輿渡御が共演するお祭りは全国的にも珍しく、華やかな江戸の町人文化を守り伝えてきた証です。

※例年5月4日・5日に開催



りなうかいさんよこくらじ
両界山横蔵寺 ③

秋には色づく紅葉も見事 由緒正しい「美濃の正倉院」

天台宗の開祖・最澄は、1本の霊木から2つの薬師如来を作り出し、1つを比叡山延暦寺に、もう1つをここに安置して、801年に横蔵寺を創建。織田信長の兵火で延暦寺の本尊が焼失したため、横蔵寺のものがそちらに移されたと言われます。「美濃の正倉院」と呼ばれているのも、こうした歴史や22体の国指定重要文化財仏像などを蔵していることから。また断食修行の末に即身成仏した妙心上人の舍利仏(ミイラ)がある寺として、さらには秋の紅葉の名所としても名を馳せます。



にしみのてんもんだい ふじはしじょう にしみの
西美濃天文台&藤橋城(西美濃プラネタリウム) ④

この地域はかつて旧環境庁の調査で「星の観察に適した村・全国3位」に定められた絶好の星スポット。天文台では、県内最大級・口径60cmの反射望遠鏡とデジタル方式の太陽望遠鏡で昼夜を問わず空を観察できます。また城を模した藤橋城は、こう見えてプラネタリウム。星好きの子供やカップルたちに人気です。

左/藤橋城(西美濃プラネタリウム)
右/天文台

お城ではありません、 プラネタリウムです